

## 添付資料

### 温室効果ガス排出量の削減効果及び資源循環の効果算出シート

事業名：廃複合プラスチックのマテリアルリサイクル

#### ■該当する類型

類型	1
----	---

#### ■基準シナリオの種別

廃プラスチック類（産業廃棄物）の全国平均の処理
-------------------------

令和8年4月 X 日

## ■目次

1	シナリオの概要と機能単位
2	算出範囲
3	インベントリデータ一覧
4-1	算出結果_温室効果ガス排出量の削減効果（製品バスケット法の場合）
4-2	算出結果_温室効果ガス排出量の削減効果（負荷回避法の場合）
5-1	算出結果_資源循環の効果（類型①）※
5-2	算出結果_資源循環の効果（類型②）※
5-3	算出結果_資源循環の効果（類型③）※
6	改訂履歴

※該当する類型の様式のみ作成すること

# 1.シナリオの概要と機能単位

改訂番号 1 入力日 令和8年4月X日

注記) 個別事業者の算定資料につき、各諸数値の根拠は一部想定値で記載しております。

当該事業において技術検証等は実施しておりません。

## 事業名：廃複合プラスチックのマテリアルリサイクル

### ■該当する類型

類型

1

### ■基準シナリオの種別

廃プラスチック類（産業廃棄物）の全国平均の処理

### ■シナリオの概要と機能単位

記入項目		記入欄
事業 シナリオ	廃棄物の種類	PE/PP/PS/PET/紙等から構成されるロール状の複合プラスチック (産業廃棄物)
	再資源化等の方法	破砕にて紙管状の古紙を回収後、熔融ペレット化によるマテリアルリサイクルを行う。残渣は焼却とする。
	再生材（複数ある場合は処理割合）	廃棄物の処理量1tあたり再生ペレット（PE）0.369t、再生ペレット（PP）0.402t、再生ペレット（PET）0.096t、再生パルプ 0.100t
シナリオ の概要	基準 シナリオ	<p>廃棄物の処理方法及び処理割合等</p> <p>廃プラスチック類（産業廃棄物、製造業）の平均的な処理を基準シナリオをとす。具体的には、環境省「令和6年度 廃棄物の広域移動対策検討調査及び廃棄物等循環利用量 実態調査報告書」より、以下の①～④のように算出した。</p> <p>廃プラスチック類（産業廃棄物、製造業）における産業廃棄物の発生量（3,464千t/年）</p> <p>①燃料化の割合： そのうち直接リサイクル：燃料（29千t/年）、処理後リサイクル：燃料（1,015千t/年）、処理後リサイクル：セメント資源化（325千t/年）を取得。そこから、燃料化の割合（<math>(29+1,015+325) \div 3,464=39\%</math>）を算出。</p> <p>②再生ペレット化の割合： そのうち直接リサイクル：その他製品原料（13千t/年）、処理後リサイクル：その他製品原料（573千t/年）を取得。その他製品原料を全量再生ペレット化と仮定し、再生ペレット化の割合（<math>(13+573) \div 3,464=17\%</math>）を算出。</p> <p>③焼却（熱回収）の割合： そのうち焼却による減量化量（891千t/年）を取得。そこから、焼却（熱回収）の割合（<math>891 \div 3,464=26\%</math>）を算出。</p>

		<p>④直接埋立の割合：  そのうち直接最終処分量（161千t/年）、処理後最終処分量（456千t/年）を取得。そこから、直接埋立の割合（<math>(161+456) \div 3,464=18\%</math>）を算出。</p> <p>その他原料は、事業シナリオで生成されるPE、PP、PETのうち、最もCO2の排出原単位が小さいPPをマテリアルリサイクルしたと仮定した。（排出原単位の最も小さいPPをリサイクルしたと仮定することで、基準シナリオの排出量が最も小さくなる）</p> <p>焼却は日本の平均的なごみ発電の効率でごみ発電されたと仮定した。</p>	
機能単位	対象とする廃棄物	種類と量	PE/PP/PS/PET等から構成されるロール状の複合プラスチック（産業廃棄物）
		排出源	XX市：XX% XX市：XX%
	生産される再生部品又は再生資源	再生ペレット（PE、PP、PET）、再生パルプ	
温室効果ガス排出量の削減効果の算出方法に負荷回避法を用いる場合に○と入力する			

## 2.算出範囲

改訂番号 1 入力日 令和8年4月X日

### 事業名：廃複合プラスチックの材料リサイクル(類型1)

#### ■各シナリオのプロセス

事業A：事業シナリオの再資源化プロセス

事業B：基準シナリオに再資源化や熱回収の工程があり、事業シナリオにはその工程がない場合、その再資源化や熱回収によって得られる製品・サービスの天然資源・プライマリー材由来の製造プロセス

基準A：基準シナリオの処理プロセス

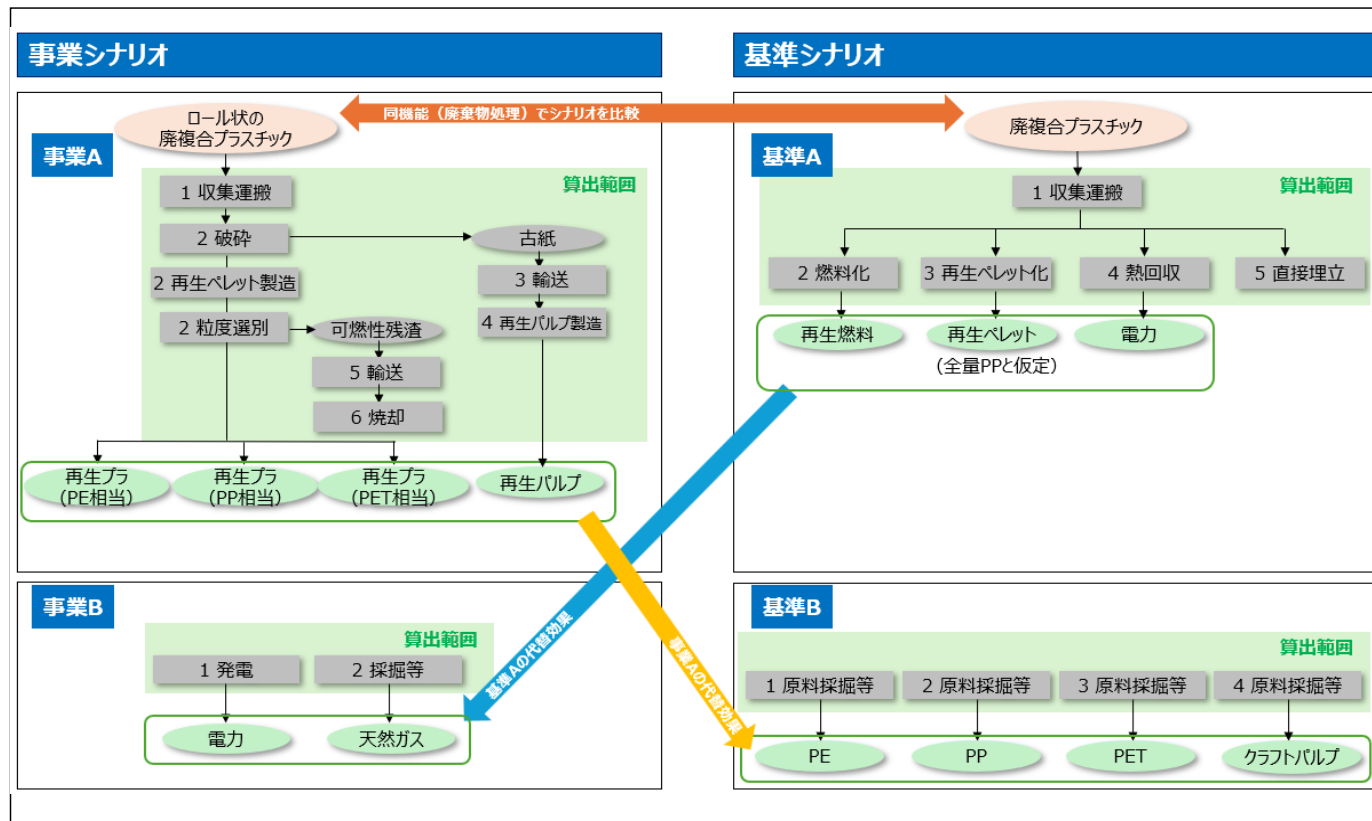
基準B：事業シナリオの再資源化と同じ製品・サービスの製造におけるプライマリー材での製造プロセス

#### ■算出範囲

類型①：A⇒収集運搬から残渣処理処分を含む再資源化等のプロセスまで B⇒プライマリー材由来の製品製造プロセスまで

類型②：A⇒収集運搬を除く残渣処理処分を含む再資源化等のプロセスまで B⇒プライマリー材由来の製品製造プロセスまで

類型③：A⇒収集運搬を除く残渣処理処分を含む再資源化等のプロセスのうち事業シナリオで設備更新等を実施するプロセスによって影響を受けるプロセス B⇒プライマリー材由来の製品製造プロセスまで



(凡例) □：プロセス ○：製品・サービス 緑色の範囲：算出範囲

#### 【入力上の注意】

- ・算出範囲のプロセスは採番をした上で、図中のプロセス凡例に番号とプロセス名を併記すること。
- ・算出範囲のプロセスは緑色の四角で囲い、算出範囲を明示すること。
- ・算出範囲のプロセスが多いなどの理由で、作図に必要なスペースが不足する場合は算出範囲について別ファイルで提出することを認める。
- ・両シナリオの廃棄物と、プロセスが生み出す製品・サービスより等量・等質（機能が等価という意味）であるものをそれぞれ両矢印で示すこと。
- ・「算出範囲」が本シートに収まりきらない場合は、別ファイルで提出してもよい。その場合は以下のとおりで提出すること。
- ・Word、Excel、PowerPoint、PDFのいずれかのファイルによること。
- ・A4サイズで印刷されることを念頭に置き、10pt以上のフォントを用いて作成すること。
- ・ファイル名は「【算出範囲】申請者名\_事業名.拡張子」とすること。
- ・類型②の場合、収集運搬のプロセスがシナリオ間で異なる場合、算出範囲に含め、同一の場合は算出範囲から省略することができる。

3.インベントリデータ一覧

改訂番号 1

入力日 令和8年4月X日

事業名：廃複合プラスチックのマテリアルリサイクル(類型1)

(1) 温室効果ガス排出量の削減効果に関するインベントリデータ

①事業シナリオ

カテゴリ	No.		プロセス	区分	数値	単位	活動量等の数値を計算した場合に用いた値、数式	出典における数値の定義・考え方	出典	出典番号
	プロセス	参照								
事業A	1 a		収集運搬	活動量	65.000	tkm	1t×65km=65tkm	事業者ヒアリングから輸送距離を算定。廃棄物1tを65km輸送する	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
	1 b		収集運搬	排出係数	0.084	kgCO2e/tkm	0.032L/tkm×2.620kgCO2e/L=0.084kgCO2e/tkm	出典より「10t車・積載率80%・2025年度基準」の燃費（0.032L/tkm）と軽油の製造・燃焼にかかる排出係数（2.620kgCO2e/L）を得て、これを乗じることで収集運搬の排出係数を求めた	・事業実績（事業者ヒアリングより） ・経済産業省、国土交通省（2023）ロジスティクス分野におけるCO2排出量算定方法共同ガイドラインVer.3.2 p59, 27	1, 2
	2 a		破碎・再生ベレット製造・選別	活動量		kWh		事業者ヒアリングより再資源化プロセスにおける消費電力と、処理能力（オレフィン系製造ライン）を取得	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
	2 b		破碎・再生ベレット製造・選別	排出係数		kgCO2e/kWh	-			3
	2 c		破碎・再生ベレット製造・選別	活動量		kWh		事業者ヒアリングより再資源化プロセスにおける消費電力と、処理能力（PET系製造ライン）を取得	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
	2 d		破碎・再生ベレット製造・選別	排出係数		kgCO2e/kWh	-			3
	3 a		古紙の輸送	活動量	0.800	tkm	0.1t×8km=0.8tkm	事業者ヒアリングから輸送距離を算定。古紙0.1tを8km輸送する	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
	3 b		古紙の輸送	排出係数	0.168	kgCO2e/tkm	0.064L/tkm×2.620kgCO2e/L=0.168kgCO2e/tkm	出典及び事業実績より「8t車・積載率40%・2025年度基準」の燃費（0.064L/tkm）と軽油の製造・燃焼にかかる排出係数（2.620kgCO2e/L）を得て、これを乗じることで収集運搬の排出係数を求めた	・事業実績（事業者ヒアリングより） ・経済産業省、国土交通省（2023）ロジスティクス分野におけるCO2排出量算定方法共同ガイドラインVer.3.2 p59, 27	1, 2
	4 a		古紙の再資源化	活動量	0.100	t	-	事業者ヒアリングより、再資源化時の古紙排出量から取得	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
	4 b		古紙の再資源化	排出係数	650.000	kgCO2e/t	-	出典より再生パルプ製造1kgあたりの排出係数を取得	環境省「3R原単位の算出方法」p74	4
5 a		可燃性残渣の輸送	活動量	0.210	tkm	0.007t×30km	事業者ヒアリングから輸送距離を算定。廃棄物0.007tを30km輸送する	事業実績（事業者ヒアリングより）	1	

【入力上の注意】

- ・「活動量等の数値を計算した場合に用いた値、数式」には、活動量に影響する収率、機器の処理能力等の条件があり、それらを掛け合わせて活動量等を算出した場合に、計算に用いた元の数値と計算式を入力する。
- ・「出典における数値の定義・考え方」には、出典におけるデータの範囲（排出係数の例：鉄鋼製品の製造/データの範囲：鉄鉱石の採掘、輸送、製鉄、製鋼、鋳造、圧延など）、設定条件（例：データ整備をおこなった地域、対象の技術、データのばらつき等データ採用にあたり留意すべき事項、など）等を明記すること。
- ・活動量を申請者自身の測定値より算出に用いる場合はガイドライン4.1.4を参照し、データの品質についても留意すること。（具体的には、データを測定した期間、データのばらつき・統計的な確からしさに関して記述すること）  
（実測値を算出に用いる例：あるプロセスについて、廃棄物1t当たりの電力消費量を計算する場合/〇〇〇年〇月～〇〇〇年〇月（12か月間）の〇〇プロセスの消費電力量の合計値を配電盤で計測した（XXXkWh）。同期間の当該プロセスの廃棄物処理量（YYyt）で消費電力量を割り算することで廃棄物1t当たりの電力消費量を算出した。  
XXX kWh / YYt = ZZZ kWh  
なお、〇〇〇年〇月～〇〇〇年〇月の月ごとの廃棄物1t当たりの電力消費量は平均値±5%の範囲内に収まることを確認済み）
- ・「出典における数値の定義・考え方」にて、他のインベントリデータを参照する場合は、下記のルールにて参照番号を付記して記載のこと。  
記載例：②基準A-3a  
=②基準シナリオ カテゴリ：基準A、プロセス・参照番号：3a を示す。
- ・「No./プロセス」には、「2.算出範囲」シートにて、フロー記載のプロセス凡例と同じプロセス名、番号を用いること。
- ・「プロセス」には、「2.算出範囲」シートのフローに記載のプロセス凡例の名称と同じものを記載のこと。
- ・「出典」に記載の引用箇所のページ番号、数値について、算出シートには出典資料として添付すること。  
出典資料は、引用箇所が分かるようマークを付けたうえで該当ページを提出のこと。

	5 b	可燃性残渣の輸送	排出係数	0.168	kgCO2e/tkm	0.064L/tkm × 2.620kgCO2e/L=0.167kgCO2e/tkm	出典及び事業実績より「8t車・積載率40%・2025年度基準」の燃費(0.064L/tkm)と軽油の製造・燃焼にかかる排出係数(2.620kgCO2e/L)を得て、これに乗じることで収集運搬の排出係数を求めた	・事業実績(事業者ヒアリングより) ・経済産業省,国土交通省(2023)ロジスティクス分野におけるCO2排出量算定方法共同ガイドラインVer.3.2 p59, 27	1, 2
	6 a	焼却	活動量	0.007	t	-	事業者ヒアリングより可燃性残渣の発生量7kgを取得	事業実績(事業者ヒアリングより)	1
	6 b	焼却	排出係数	2,760.000	kgCO2e/t	-	出典より「廃プラスチック」の排出係数を取得	環境省(2025)「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出量等の算定のための排出原単位データベース(Ver.3.5)」,[8]廃棄物種類・処理方法別排出原単位<事務局>、「廃プラスチック類(合成繊維,廃タイヤ,廃プラスチック類(産業廃棄物であるものに限る。))及びポリエチレンテレフタレート製の容器を除く。)」	5
事業B	1 a	発電	活動量	378.502	kWh	0.334t × 28,730MJ/t × 14.2% ÷ 3.6MJ/kWh=374kWh	出典よりごみ焼却施設における発電効率(平均)14.2%を得た。また、資源エネルギー庁「総合エネルギー統計」より、「廃プラスチック直接利用」の標準発熱量として28,730MJ/tを得た。基準A-4aより、廃プラスチックの熱回収量0.334t	・環境省「一般廃棄物処理事業実態調査の結果(令和5年度)について」p9 ・資源エネルギー庁「総合エネルギー統計」「固有単位表」	6, 7
	1 b	発電	排出係数	0.423	kgCO2e/kWh	-	出典より電気事業者の排出係数の平均値を取得	環境省「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度 電気事業者別排出係数一覧 令和7年提出用」p18	3
	2 a	採掘等	活動量	0.173	t	0.351t × 26,880MJ/t ÷ 54,690MJ/t = 0.173t	資源エネルギー庁「総合エネルギー統計」より再生燃料と輸入天然ガス(LNG)の標準発熱量(再生燃料:26.88MJ/kg, LNG:54.69MJ/kg)を取得。②基準A-2aより再生燃料(0.351t)と標準発熱量が等しい天然ガスの量を算出	・事業実績(事業者ヒアリングより) ・資源エネルギー庁「総合エネルギー統計」「固有単位表」	1,7
	2 b	採掘等	排出係数	168.000	kgCO2e/t	-	「5産連表DB>石炭・原油・天然ガス(71101)」より排出係数を取得	環境省(2025)「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出量等の算定のための排出原単位データベースVer3.5」 「5産連表DB」 No33	5

②基準シナリオ

カテゴリ	No.		プロセス	区分	数値	単位	活動量等の数値を計算した場合に用いた値、数式	出典における数値の定義・考え方	出典	出典番号
	プロセス	参照								
	1 a		収集運搬	活動量	30.000	km	-	出典より産廃プラの収集・運搬についてにかかるインベントリデータを取得	海洋プラスチック問題対応協議会(2022)「産業系廃プラスチックのLCA評価」p23	8
	1 b		収集運搬	排出係数	0.252	kgCO2e/tkm	0.096L/tkm × 2.62kgCO2e/L=0.252kgCO2e/tkm	出典より「4t車・見なし積載率・2025年度基準」の燃費(0.096L/tkm)と軽油の製造・燃焼にかかる排出係数(2.62kgCO2e/L)を得て、これに乗じることで収集運搬の排出係数を求めた	・海洋プラスチック問題対応協議会(2022)「産業系廃プラスチックのLCA評価」p23 ・経済産業省,国土交通省(2023)ロジスティクス分野におけるCO2排出量算定方法共同ガイドラインVer.3.2 p60, 27	2,8

2 a	燃料化	活動量	0.351 t	$0.9t \times 39\% = 0.351t$	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者ヒアリングより、廃プラスチックの処理割合（90%）を取得。事業シナリオと同比率に設定。</li> <li>・出典より、廃プラスチック類（産業廃棄物、製造業）における産業廃棄物の発生量（3,464千t/年）、そのうち直接リサイクル：燃料（29千t/年）、処理後リサイクル：燃料（1,015千t/年）、処理後リサイクル：セメント資源化（325千t/年）を取得。そこから、燃料化の割合（<math>(29+1,015+325) \div 3,464=39\%</math>）を算出</li> </ul>	環境省「令和6年度 廃棄物の広域移動対策検討調査及び廃棄物等循環利用量実態調査報告書」p34	9
2 b	燃料化	排出係数	109.000 kgCO <sub>2</sub> e/t	-	出典より廃プラスチック類の燃料化にかかる排出係数を取得	海洋プラスチック問題対応協議会（2019）「プラスチック製容器包装再商品化手法およびエネルギーリカバリーの環境負荷評価（LCA）」p90	10
3 a	再生ペレット化	活動量	0.153 t	$0.9t \times 17\% = 0.153t$	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者ヒアリングより、廃プラスチックの処理割合（90%）を取得。事業シナリオと同比率に設定。</li> <li>・出典より、廃プラスチック類（産業廃棄物、製造業）における産業廃棄物の発生量（3,464千t/年）、そのうち直接リサイクル：その他製品原料（13千t/年）、処理後リサイクル：その他製品原料（573千t/年）を取得。その他製品原料を全量再生ペレット化と仮定し、再生ペレット化の割合（<math>(13+573) \div 3,464=17\%</math>）を算出</li> </ul>	環境省「令和6年度 廃棄物の広域移動対策検討調査及び廃棄物等循環利用量実態調査報告書」p34	9
3 b	再生ペレット化	排出係数	425.000 kgCO <sub>2</sub> e/t	$0.425\text{kgCO}_2\text{e}/\text{kg} = 425\text{kgCO}_2\text{e}/\text{t}$	出典より、ペレット製造の排出係数0.425kgCO <sub>2</sub> /kgを取得	海洋プラスチック問題対応協議会（2019）「プラスチック製容器包装再商品化手法およびエネルギーリカバリーの環境負荷評価（LCA）」p39, 47	10
4 a	熱回収	活動量	0.334 t	$0.9t \times 26\% + 0.1t = 0.334t$	事業者ヒアリングより、廃プラスチック（90%）と古紙（10%）の処理割合を取得。事業シナリオと同比率に設定。出典より、廃プラスチック類（産業廃棄物、製造業）における産業廃棄物の発生量（3,464千t/年）、そのうち焼却による減量化量（891千t/年）を取得。そこから、焼却（熱回収）の割合（ $891 \div 3,464=26\%$ ）を算出。古紙を熱回収とした	環境省「令和6年度 廃棄物の広域移動対策検討調査及び廃棄物等循環利用量実態調査報告書」p34	9
4 b	熱回収	排出係数	2,710.000 kgCO <sub>2</sub> e/t	-	出典より廃プラスチック類の焼却にかかる排出係数を取得	海洋プラスチック問題対応協議会（2019）「プラスチック製容器包装再商品化手法およびエネルギーリカバリーの環境負荷評価（LCA）」p90	10

	5 a	直接埋立	活動量	0.162 t		0.9t×18%=0.162t	事業者ヒアリングより、廃プラスチック（90%）の処理割合を取得。事業シナリオと同比率に設定。出典より、廃プラスチック類（産業廃棄物、製造業）における産業廃棄物の発生量（3,464千t/年）、そのうち直接最終処分量（161千t/年）、処理後最終処分量（456千t/年）を取得。そこから、直接埋立の割合（ $(161+456) \div 3,464=18\%$ ）を算出	環境省「令和6年度 廃棄物の広域移動対策検討調査及び廃棄物等循環利用量実態調査報告書」（廃棄物等循環利用量実態調査編）p34	9
	5 b	直接埋立	排出係数	0.000	kgCO <sub>2</sub> e/t	-	廃プラスチック類の埋立処理に係る排出係数は0と設定	-	-
基準B	1 a	PEの原料採取等	活動量	0.369	t	-	事業者ヒアリングより、PEの製造量を取得	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
	1 b	PEの原料採取等	排出係数	1,530.000	kgCO <sub>2</sub> e/t	-	出典よりPEの「原料採取～輸入～石油精製～原料製造～製品製造」における排出係数を取得	環境省「3R原単位の算出方法」p35	4
	2 a	PPの原料採取等	活動量	0.249	t	0.402t - 0.153t=0.249t	事業者ヒアリングよりPPの製造量0.402tを取得。基準A-3aより再生ペレット(PP)0.153tが生成されると仮定して、事業より生成されるPPの量から差し引いた	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
	2 b	PPの原料採取等	排出係数	1,490.000	kgCO <sub>2</sub> e/t	-	出典よりPPの「原料採取～輸入～石油精製～原料製造～製品製造」における排出係数を取得	環境省「3R原単位の算出方法」p35	4
	3 a	PETの原料採取等	活動量	0.096	t	-	事業者ヒアリングよりPETの製造量を取得	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
	3 b	PETの原料採取等	排出係数	1,590.000	kgCO <sub>2</sub> e/t	-	出典よりPETの「原料採取～輸入～石油精製～原料製造～製品製造」における排出係数を取得	環境省「3R原単位の算出方法」p35	4
	4 a	クラフトパルプの原料採取等	活動量	0.100	t	-	事業者ヒアリングより再生パルプの排出量を取得	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
	4 b	クラフトパルプの原料採取等	排出係数	1,260.000	kgCO <sub>2</sub> e/t	-	出典よりクラフトパルプの「原料採取～輸入～石油精製～原料製造～製品製造」における排出係数を取得	環境省「3R原単位の算出方法」p74	4

(2) 資源循環の効果に関するインベントリデータ

③事業シナリオ

カテゴリ	No.	再生材	数値	単位	活動量等の数値を計算した場合に用いた値、数式	出典における数値の定義・考え方	出典	出典番号
事業A	1	再生ベレット (PE相当)	0.369	t	-	リサイクルによる産出物	事業実績 (事業者ヒアリングより)	1
	2	再生ベレット (PP相当)	0.402	t	-	リサイクルによる産出物	事業実績 (事業者ヒアリングより)	1
	3	再生ベレット (PET相当)	0.096	t	-	リサイクルによる産出物	事業実績 (事業者ヒアリングより)	1
	4	再生パルプ	0.100	t	-	リサイクルによる産出物	事業実績 (事業者ヒアリングより)	1

④基準シナリオ

カテゴリ	No.	再生材	数値	単位	活動量等の数値を計算した場合に用いた値、数式	出典における数値の定義・考え方	出典	出典番号
基準A	1	再生ベレット (PP)	0.153	t	-	マテリアルリサイクルによって製造された再生樹脂の量	環境省「廃棄物の広域移動対策検討調査及び廃棄物等循環利用量実態調査報告書 (令和4年度実績)」p14	9
	2	再生燃料	0.351	t	-	マテリアルリサイクルによって製造された再生燃料の量	環境省「廃棄物の広域移動対策検討調査及び廃棄物等循環利用量実態調査報告書 (令和4年度実績)」p14	9

4-1.算出結果 温室効果ガス排出量の削減効果（製品バスケット法の場合）

改訂番号 1

入力日

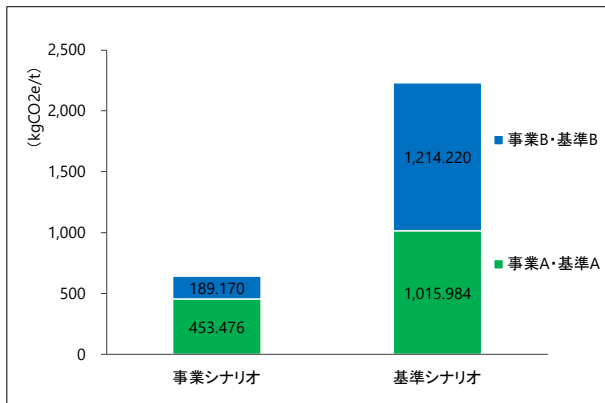
令和8年4月X日

事業名：廃複合プラスチックのマテリアルリサイクル(類型1)

(1) 温室効果ガス排出量の削減効果

①廃棄物1t当たりの削減量

カテゴリ	項目	排出量 (kgCO2e/t)
事業A	事業シナリオの再資源化プロセス	453.476
事業B	基準シナリオに再資源化や熱回収の工程があり、事業シナリオにはその工程がない場合、その再資源化や熱回収によって得られる製品・サービスの天然資源・プライマリー材由来の製造プロセス	189.170
基準A	基準シナリオの処理プロセス	1,015.984
基準B	事業シナリオの再資源化と同じ製品・サービスの製造におけるプライマリー材での製造プロセス	1,214.220
温室効果ガスの排出削減量 (基準A+基準B)-(事業A+事業B)		1,587.558



(2) 算出結果の詳細

活動量および排出係数については、「3.インベントリデータ一覧」に典拠、算出方法を記載すること。

フロー図上のカテゴリとプロセスのNo.を合わせて、記載すること。

①事業シナリオ

カテゴリ	No.	プロセス	活動量				排出係数				排出量 (kgCO2e/t)
			参照No.	項目名	数値	単位	参照No.	排出係数名	数値	単位	
事業A	1	収集運搬	a	トラック輸送	65.000	tkm	b	トラック輸送	0.084	kgCO2e/tkm	5.460
	2	破碎・再生ベレット製造・選別	a	破碎・再生ベレット製造・選別		kWh	b	破碎・再生ベレット製造・選別		kgCO2e/kWh	257.776
	2	破碎・再生ベレット製造・選別	c	破碎・再生ベレット製造・選別		kWh	d	破碎・再生ベレット製造・選別		kgCO2e/kWh	105.750
	3	古紙の輸送	a	トラック輸送	0.800	tkm	b	トラック輸送	0.168	kgCO2e/tkm	0.134
	4	古紙の再資源化	a	古紙の再資源化	0.100	t	b	古紙の再資源化	650.000	kgCO2e/t	65.000
	5	可燃性残渣の輸送	a	トラック輸送	0.210	tkm	b	トラック輸送	0.168	kgCO2e/tkm	0.035
	6	焼却	a	焼却	0.007	t	b	焼却	2,760.000	kgCO2e/t	19.320
合計											453.476

カテゴリ	No.	プロセス	活動量				排出係数				排出量 (kgCO2e/t)
			参照No.	項目名	数値	単位	参照No.	排出係数名	数値	単位	
事業B	1	発電	a	発電	378.502	kWh	b	発電	0.423	kgCO2e/kWh	160.106
	2	採掘等	a	採掘等	0.173	t	b	採掘等	168.000	kgCO2e/t	29.064
合計											189.170

②基準シナリオ

カテゴリ	No.	プロセス	活動量				排出係数				排出量 (kgCO2e/t)
			参照No.	項目名	数値	単位	参照No.	排出係数名	数値	単位	
基準A	1	収集運搬	a	トラック輸送	30.000	tkm	b	トラック輸送	0.252	kgCO2e/tkm	7.560
	2	燃料化	a	燃料化	0.351	t	b	燃料化	109.000	kgCO2e/t	38.259
	3	再生ベレット化	a	再生ベレット化	0.153	t	b	再生ベレット化	425.000	kgCO2e/t	65.025
	4	熱回収	a	熱回収	0.334	t	b	熱回収	2710.000	kgCO2e/t	905.140
	5	直接埋立	a	直接埋立	0.162	t	b	直接埋立	0.000	kgCO2e/t	0.000
合計											1,015.984

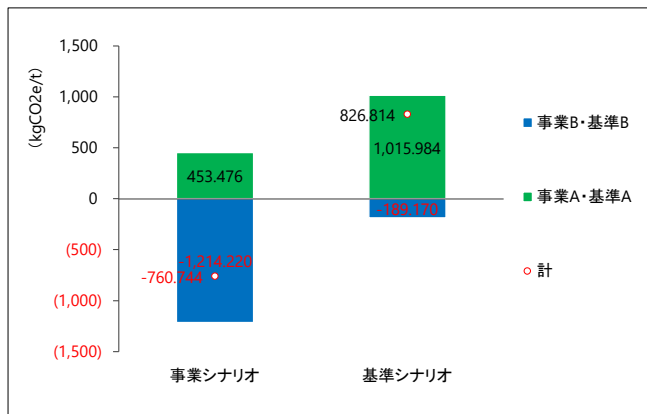
カテゴリ	No.	プロセス	活動量				排出係数				排出量 (kgCO2e/t)
			参照No.	項目名	数値	単位	参照No.	排出係数名	数値	単位	
基準B	1	PEの原料採取等	a	採掘・精製	0.369	t	b	採掘・精製	1,530	kgCO2e/t	564.570
	2	PPの原料採取等	a	採掘・精製	0.249	t	b	採掘・精製	1,490	kgCO2e/t	371.010
	3	PETの原料採取等	a	採掘・精製	0.096	t	b	採掘・精製	1,590	kgCO2e/t	152.640
	4	パルプの原料採取等	a	採掘・精製	0.100	t	b	採掘・精製	1,260	kgCO2e/t	126.000
合計											1,214.220

事業名：廃複合プラスチックのマテリアルサイクル(類型1)

(1) 温室効果ガス排出量の削減効果

① 廃棄物1t当たりの削減量

カテゴリ	項目	排出量 (kgCO <sub>2</sub> e/t)
事業A	事業の取組実施による温室効果ガス排出量	453.476
基準B	事業シナリオの再資源化と同じ製品の製造における、プライマリー材製造工程での温室効果ガス排出量(負の排出量として計上)	-1,214.220
事業シナリオ		-760.744
基準A	廃棄物の適正処理、再資源化又は熱回収の工程での温室効果ガス排出量	1,015.984
事業B	基準シナリオで再資源化や熱回収が行われていたと設定した場合に、従来の処理が行われなくなってしまうことを補うために必要な工程での温室効果ガス排出量(負の排出量として計上)	-189.170
基準シナリオ		826.814
<b>温室効果ガス排出量の削減効果 (基準A+事業B) - (事業A+基準B)</b>		<b>1,587.558</b>



(2) 算出結果の詳細

活動量および排出係数については、「3.インベントリデータ一覧」に出典、算出方法を記載すること。  
フロー図上のカテゴリとプロセスのNo.を合わせて、記載すること。

① 事業シナリオ

カテゴリ	No.	プロセス	活動量				排出係数				排出量 (kgCO <sub>2</sub> e/t)
			参照No.	項目名	数値	単位	参照No.	排出係数名	数値	単位	
事業A	1	収集運搬	a	トラック輸送	65.000	tkm	b	トラック輸送	0.084	kgCO <sub>2</sub> e/tkm	5.460
	2	破碎・再生ベレット製造	a	破碎・再生ベレット製造・選別		kWh	b	破碎・再生ベレット製造・選別		kgCO <sub>2</sub> e/kWh	257.776
	2	破碎・再生ベレット製造	c	破碎・再生ベレット製造・選別		kWh	d	破碎・再生ベレット製造・選別		kgCO <sub>2</sub> e/kWh	105.750
	3	古紙の輸送	a	トラック輸送	0.800	tkm	b	トラック輸送	0.168	kgCO <sub>2</sub> e/tkm	0.134
	4	古紙の再資源化	a	古紙の再資源化	0.100	t	b	古紙の再資源化	650.000	kgCO <sub>2</sub> e/t	65.000
	5	可燃性残渣の輸送	a	トラック輸送	0.210	tkm	b	トラック輸送	0.168	kgCO <sub>2</sub> e/tkm	0.035
	6	焼却	a	焼却	0.007	t	b	焼却	2,760.000	kgCO <sub>2</sub> e/t	19.320
<b>合計</b>											<b>453.476</b>

カテゴリ	No.	プロセス	活動量				排出係数				排出量 (kgCO <sub>2</sub> e/t)
			参照No.	項目名	数値	単位	参照No.	排出係数名	数値	単位	
事業B	1	発電	a	発電	378.502	kWh	b	発電	0.423	kgCO <sub>2</sub> e/kWh	160.106
	2	採掘等	a	採掘等	0.173	t	b	採掘等	168.000	kgCO <sub>2</sub> e/t	29.064
<b>合計</b>											<b>189.170</b>

② 基準シナリオ

カテゴリ	No.	プロセス	活動量				排出係数				排出量 (kgCO <sub>2</sub> e/t)
			参照No.	項目名	数値	単位	参照No.	排出係数名	数値	単位	
基準A	1	収集運搬	a	トラック輸送	30.000	tkm	b	トラック輸送	0.252	kgCO <sub>2</sub> e/tkm	7.560
	2	燃料化	a	燃料化	0.351	t	b	燃料化	109.000	kgCO <sub>2</sub> e/t	38.259
	3	再生ベレット化	a	再生ベレット化	0.153	t	b	再生ベレット化	425.000	kgCO <sub>2</sub> e/t	65.025
	4	熱回収	a	熱回収	0.334	t	b	熱回収	2,710.000	kgCO <sub>2</sub> e/t	905.140
	5	直接埋立	a	直接埋立	0.162	t	b	直接埋立	0.000	kgCO <sub>2</sub> e/t	0.000
<b>合計</b>											<b>1015.984</b>

カテゴリ	No.	プロセス	活動量				排出係数				排出量 (kgCO <sub>2</sub> e/t)
			参照No.	項目名	数値	単位	参照No.	排出係数名	数値	単位	
基準B	1	PEの原料採取等	a	採掘・精製	0.369	t	b	採掘・精製	1,530.000	kgCO <sub>2</sub> e/t	564.570
	2	PPの原料採取等	a	採掘・精製	0.249	t	b	採掘・精製	1,490.000	kgCO <sub>2</sub> e/t	371.010
	3	PETの原料採取等	a	採掘・精製	0.096	t	b	採掘・精製	1,590.000	kgCO <sub>2</sub> e/t	152.640
	4	パルプの原料採取等	a	採掘・精製	0.100	t	b	採掘・精製	1,260.000	kgCO <sub>2</sub> e/t	126.000
<b>合計</b>											<b>1214.220</b>

## 5-1.算出結果\_資源循環の効果（類型①）

改訂番号

1

入力日

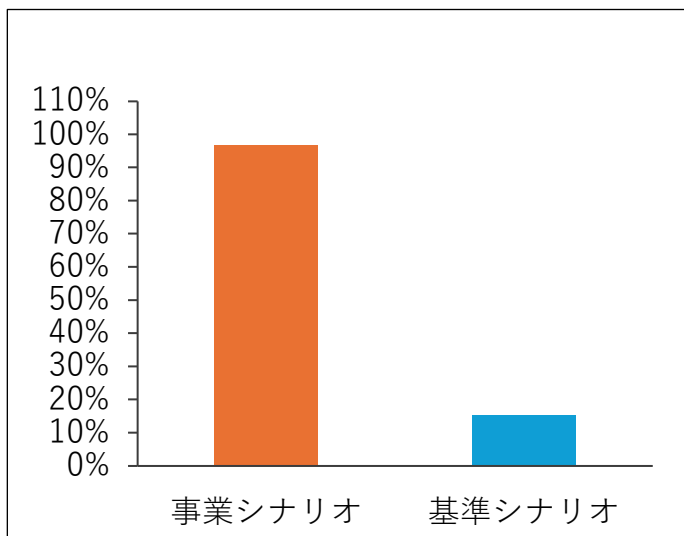
令和8年4月X日

### 事業名：廃複合プラスチックの MATERIAL リサイクル(類型1)

#### (1) 資源循環の効果

##### ①廃棄物1t当たりの資源循環の効果

項目	事業シナリオ	基準シナリオ
廃棄物の処理量 (t)	1.000	1.000
再生材供給量 (t)	0.967	0.153
再生材供給量/ 廃棄物の処理量 (%)	97%	15%
<b>資源循環の効果 = 事業シナリオ - 基準シナリオ</b>		<b>81pt</b>



#### (2) 算出結果の詳細

活動量等については、「3.インベントリデータ一覧」に出典、算出方法等を記載すること。

##### ①事業シナリオ

No.	再生材供給量 (t)		
	項目名	数値	単位
1	再生ペレット (PE相当)	0.369	t
2	再生ペレット (PP相当)	0.402	t
3	再生ペレット (PET相当)	0.096	t
4	再生パルプ	0.100	t
合計		0.967	t

##### ②基準シナリオ

No.	再生材供給量 (t)		
	項目名	数値	単位
1	再生ペレット (PP)	0.153	t
合計		0.153	t